



ちゅうおうわか じよせいかちようかい  
中央若い女性会長会  
第二顧問  
ベッキー・  
クレーブン

ひょうじゆん  
**標準にそった**  
せいかつ  
**生活をする**

「いつでも……<sup>かみ しゅうにん</sup>神の証人になる」(モーサヤ 18:9)

**父**は軍隊に入っていたので、わたしがおさないころ、<sup>か</sup>家族は何度も引っこしをしました。引っこしでいちばん大変なことの<sup>ひと</sup>一つは、友達と別れることです。わたしは、はずかしがりだったので、簡単に新しい友達を作れませんでした。ありがたいことに、<sup>がっこう</sup>学校でも<sup>しやうとうきやう</sup>初等協会でも、いつもみんな親切<sup>しんせつ</sup>にしてくれました。教会では、<sup>ひと</sup>人<sup>とちが</sup>ちがっていてもかま

いません。わたしたちはみんな<sup>ともだち</sup>友達です。はずかしがりを克服する一つの<sup>か</sup>方法は、<sup>きやうかい</sup>教会で人を助けることでした。人を助けるようになったのは、<sup>しやうとうきやうかい</sup>初等協会からでした。分かち合いの<sup>じかん</sup>時間にせいくを<sup>はっぴやう</sup>発表し、大きな声で読みました。少しずつ、<sup>じしん</sup>自信が<sup>つ</sup>きました。おかげで、自分の信じていることをはっきり言えるようになりました。

4年生か5年生のときは、<sup>か</sup>家族でアメリカのメリーランド州に住んでいました。学校に<sup>きやうかい</sup>教会員はあまりいませんでした。教会員の<sup>ともだち</sup>友達も、<sup>ともだち</sup>そうでない友達もいました。

わたしが10代のころ、<sup>ひと</sup>何人かの<sup>ともだち</sup>友達がわたしの<sup>ひょうじゆん</sup>標準に反することをしました。でも、わたしに同じことをさせようとはしませんでした。友達がわたしの信じていることを<sup>そんじやう</sup>尊重してくれたことに感謝しています。時々、学校の友達と同じことができなくて、取り残されたように感じることもありました。でも、<sup>じぶん</sup>自分の<sup>ひょうじゆん</sup>標準にしたがうと、いつも<sup>よい</sup>良い<sup>きもち</sup>気持ちがしました。何があっても福音にしたがって生活しようと決めました。わたしのあかしは、<sup>しやうとうきやうかい</sup>初等協会と<sup>かみ</sup>家庭の夕べの中で強くなりました。自分が<sup>かみ</sup>神の子であることを知るようになりました。

何年も後で、<sup>か</sup>学校の<sup>ともだち</sup>友達が二人、<sup>きやうかい</sup>教会員になったことを知りました。とてもうれしかったです。二人は、<sup>こども</sup>子供のときにわたしが福音にしたがって生活しているのを見ていたので、<sup>せんきやうし</sup>宣教師の話<sup>はなし</sup>を聞くことにしたと教えてくれました。

<sup>あい</sup>愛する<sup>ゆうじん</sup>わかい友人<sup>てん</sup>のみなさん、みなさんは天のお父様の子供です。この大切な<sup>まいにち</sup>真理を毎日覚えておくと、もっと簡単に福音にしたがって生活できるようになるでしょう。●

